

水道給水の歴史を紹介します

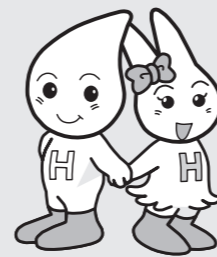
彦根市では、昭和33年12月に水道事業を創設し、昭和35年11月3日に記念すべき上水道の給水を開始し、今年で50年を迎えます。

今回、水道事業創設までの経緯と、給水を開始してから50年のあゆみをまとめました。

問い合わせ先 水道部業務課 ☎22-2722番、FAX24-4054番
大藪浄水場 ☎22-3324番

給水開始50年記念イベント「水道フェア」を次のとおり開催します。多くの皆様のご来場をお待ちしています。詳しくは、広報ひこね10月1日号24ページをご覧ください。

日時 11月7日(日) 午前9時30分～午後4時まで
場所 大藪浄水場


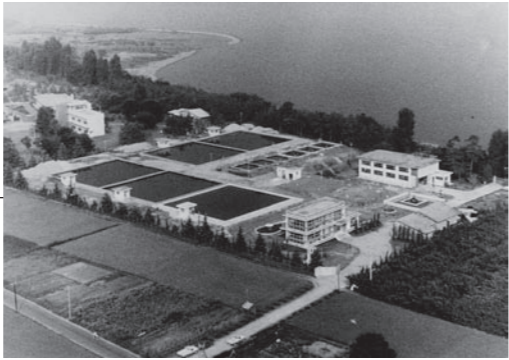

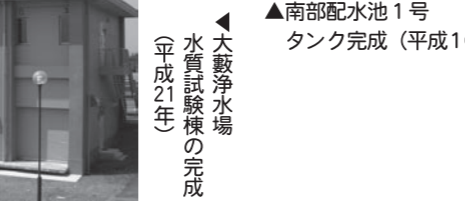



水道事業創設までの経緯

主要参考資料：「彦根市の上水道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

- 昭和12年 水道条例(旧法)に基づき、上水道の建設計画が立てられ、国に申請書が提出されましたが、日中戦争勃発のため、実現するには至りませんでした。
- 昭和24年 マラリア病(蚊により媒介される伝染病)患者を多く出していた彦根市では、彦根市マラリア対策第一次五ヶ年計画を立てました。水道の創設計画もこのなかで公表され、昭和26年、27年の「彦根市マラリア対策」には、次のように書かれています。「上下水道設置計画—マラリア対策の最終的事業として、上下水道の設置を計画し、可及的早期にこれの実現に着手する。」
- 昭和27年 厚生省が市町村に対して、「上下水道の将来計画について」の調査を行い、彦根市は、「給水人口約3万人、1人1日あたり最大給水量180L、水源については深井戸による地下水とし、配水設備として雨壺山に貯水槽を設置する。」という回答をしました。
- 昭和29年 彦根市マラリア対策第二次五ヶ年計画の衛生土木第二次五ヶ年計画では、上下水道の設置準備として「都市形態整備上からも衛生的見地よりもマラリア対策の最終仕上げとしても上下水道の設置は必要であるので、これの建設準備に本格的に着手する。」と書かれています。水道設置の準備として、市内の井戸水の水質試験が行われました。
- 昭和30年 滋賀県から「上水道新規事業計画並びに上水道普及状況について」の調査があり、「水源については、犬上川上流など複数の構想があり、検討中」と回答しました。水道設置の準備として、西部地区の井戸水減量の問題について調査が行われました。
- 昭和31年 水道設置の準備として、市全体にわたって世論調査が行われました。
- 昭和32年 5月22日に「水道建設準備事務所」が設置され、上水道建設に本格的に着手しました。
- 昭和33年 彦根市の上水道に関する5つの基本計画のうち、基本計画の策定を委託していた京都大学工学部岩井重久教授が「琵琶湖から取水し、大藪に浄水場、天王山に配水池を設ける案」を可としました。

水道事業創設から50年のあゆみ

年	事業のあゆみ
昭和33年)	<p>計画給水人口 3万2,000人 計画1日最大給水量 8,000m³ 大藪浄水場緩速ろ過池の築造 給水開始(昭和35年) 天王山配水池(2池)の築造</p>  <p>▲大藪浄水場緩速ろ過池築造(昭和35年)</p>
昭和38年	
昭和39年)	<p>計画給水人口 6万5,000人 計画1日最大給水量 2万2,100m³ 天王山配水池(2池)の増築 小泉水源地の設置</p>  <p>▲大藪浄水場緩速ろ過池5池完成(昭和43年)</p>
昭和46年	
昭和47年)	<p>計画給水人口 7万5,000人 計画1日最大給水量 3万1,500m³ 天王山配水池(1池)の増築 東沼波水源地の設置</p>  <p>▲大藪浄水場急速ろ過池1系完成(昭和56年)</p>
昭和52年	
昭和53年)	<p>計画給水人口 10万2,000人 計画1日最大給水量 6万8,800m³ 大藪浄水場急速ろ過池1系築造 天王山配水池(1池)の増築 稲枝上水道を彦根市上水道に統合</p> 
平成元年	
平成2年)	<p>計画給水人口 10万8,700人 計画1日最大給水量 6万8,800m³ 天王山配水池(1池)の増築 南部配水池(1池)の築造</p>  <p>▲南部配水池1号タンク完成(平成10年)</p>
平成11年	
平成12年)	<p>計画給水人口 11万8,700人 計画1日最大給水量 6万8,800m³ 南部配水池(1池)の増築、新東沼波水源地の築造、稲枝配水池の築造、天王山配水池の築造、大藪浄水場水質試験棟の改築</p>  <p>▲大藪浄水場水質試験棟の完成(平成21年)</p>
平成28年	